

今回はここに注目

卒業時の進路アンケート

となりの学校の進路指導

file.3 : 浦和高校(埼玉・県立)

大学受験直後の熱のこもった体験談を 在校生の学習やモチベーションに活かす



影響力ある先輩の言葉を
そのまま活かす

全国有数の進学校として知られる県立浦和高校。毎年、大学受験直後の3年次に進路アンケートを実施し、その内容を学校全体で共有することにより、在校生の受験対策やモチベーションアップ、進路指導に役立てている。約20年前、学校改革を進めるなかで、進路指導の体制整備の一環として始まった取組だ。

「本校の生徒は同じ浦和生に対する仲間意識が強く、お互いに大きな影響を与え合いながら学校生活を送っています。進路についても、教員が何かを言うより、先輩の言葉のほうに効果的に生徒に響くと考えています」(進路指導主事・菅野治虫先生)

アンケート項目は、「受験結果」のほか、「志望校決定の時期や理由」「勉強法」「長期休暇の過ごし方」など多岐にわたる(図)。一般選抜が本格化する直前、3年次にアンケート用紙を配付。受験が終わった時点で記入し、卒業までに提出してもらう。パソコンから回答できる体制も整えたが、より熱量が感じられる手書きが主流だ。記入されたアンケートを見ると、細かい字でびっしりと書かれたものが多い。自身の工夫や失敗が赤裸々に書かれており、「1年次のうちにどれだけ多くを身につけたかでその後の負担が大きく変わる」「やはり基礎の徹底、苦手分野をつくらないことが大事」「授業後に最低1個は疑問点をもつて先生に質問してみよう」などのアドバイスも豊富だ。また、合格者の成功体

もっと
教えて!

進路指導のあれこれ

Q どんな学校?



A 大学進学実績で注目されることが多いですが、本校の本質は、次代を担うグローバルリーダーを育成するための全人教育にあります。生徒には「大学進学はゴールではない」と伝え、人間としての資質を育てるさまざまな仕掛けを行っています。例えば、象徴的な伝統行事として、50キロメートルを7時間以内に完歩する強歩大会や、臨海学校での最長2キロメートルの遠泳などに全員が取り組みます。事前練習を含めて仲間と切磋琢磨し、励まし合いながら困難を乗り越えることで、強い精神力を養っています。それが高い目標にチャレンジする力につながっています。(菅野先生)

Q 進路指導で大切に
していることは?



A 全教員が「浦和生生活のすべてが進路指導」という共通認識を持ち、「日々の授業」と「生徒への励まし」を大切にしています。日々の授業は各教科で充実を図り、授業を中心とした自律的な学習サイクルを支援。塾に行かずに難関校に合格する生徒もいます。また、生徒への励ましとして、担任は年5回面談を行います。「君のことを応援しているよ」というスタンスで、生徒の日々の生活状況や気になることに耳を傾け、高い志をもって主体的なチャレンジができるよう励ましています。(菅野先生)

アンケート項目

- 合格した大学・学部・学科（進学先に○印をつけてください）／不合格だった大学・学部・学科
- 志望校を最終的に決定した時期はいつですか。また、志望校決定の理由を書いてください。
- 受験勉強について、後輩へのアドバイスを書いてください。※教科ごとの勉強法、使用した参考書・問題集等、共通テスト対策
- 夏休み・冬休みの過ごし方について
- 家庭研修中の過ごし方について
- 不得意科目はどのように克服しましたか。
- 部活動／部活動を引退した時期／部活動と受験勉強との両立で工夫した点、アドバイスなど
- 最後に、後輩に伝えておきたいこと等ありましたら、書いてください。
- 2次試験で面接を課す大学を受験した生徒は、形式（面接官3：受験生1等）・質問された内容を書いてください。

ダウンロード可

進路アンケート

合格した大学・学部・学科（進学先に○印をつけてください）

不合格だった大学・学部・学科

志望校を最終的に決定した時期はいつですか。また、志望校決定の理由を書いてください。

受験勉強について、後輩へのアドバイスを書いてください。

夏休み・冬休みの過ごし方について

家庭研修中の過ごし方について

不得意科目はどのように克服しましたか。

部活動／部活動を引退した時期／部活動と受験勉強との両立で工夫した点、アドバイスなど

最後に、後輩に伝えておきたいこと等ありましたら、書いてください。

2次試験で面接を課す大学を受験した生徒は、形式（面接官3：受験生1等）・質問された内容を書いてください。

B4サイズの裏表2ページに自身の経験やアドバイスがびっしり記入されている。フォーマットはダウンロード可能。

各教室で自由に閲覧
ヒントを得たり、励まされたり

例年200枚以上のアンケート提出がある。そのうち100枚程度を抜粋し、氏名を伏せてコピーしたものをファイルに綴じ、各クラスに配付している。教室には常に過去3年分が備えられ、生徒はいつでも自由に閲覧できる。

「学年が上がるにつれて、教室でアンケートを読んでいる生徒の姿が増えています。参考書や問題集などは、先輩の話を参考に、同じものを使う生徒が多いですね」（塩原先生）

アンケートに書かれた言葉は、学習意欲が低下したり自信をなくしたりした生徒

学校への信頼感を
測る手段としても活用

アンケートのコメントは、進路指導を行う教員にとっても貴重な情報だ。生徒集会で進路について話す際や、進路により作

を励ます効果もあるという。「こんな私が合格したということは、浦高生は誰でも東大合格の可能性を大いに秘めている」「自分

生活を送り、浦高と自分を信じて受験勉強をがんばってください」「共に努力する仲間

維持して走り抜けてほしい」「同じ高校生生活を送った先輩の言葉だからこそ、生徒

は素直に受け止めることができるようだ。

「受験直後の勢いのまま書いているため言葉に熱があり、これから受験に向かう生徒

たちのモチベーションを高める効果は絶大です」（菅野先生）

験だけでなく、不合格者の回答もある。

「何が良くなかったのかを自己分析し、後輩へのメッセージを寄せてくれます。非常に貴重でありがたいコメントです」（進路指導部 塩原壮先生）

成時にも引用している。

「難関大学に合格した先輩の体験談は、自分とは関係ない話だと思ってしまう生徒もいます。しかし、必ずしも1年次から優秀だった先輩ばかりではありません。そこに至る努力のプロセスも含めて話すことで、誰でもこうなれる可能性を伝えるよう心掛けています」（菅野先生）

また、アンケートのフォーマットは毎年ほぼ同じのため、年度による回答の傾向の違いを読み取りやすい。進路指導部では、学校や進路指導に対する信頼感が揺らいでいないかという視点で、すべてのアンケート結果に目を通して

「今のところアンケート結果からは学校への大きな信頼を感じています。しかし、さまざまな環境変化のなかでそれが継続するとは限りません。アンケートも一つの材料として注視し、必要に応じて対策をしていきたいと思います」（菅野先生）

生徒集会で進路について話す際や、進路により作

進路指導部の先生方



生徒の主体性を尊重する伝統を守りつつ、近年は組織的な進路指導にも力を入れている。「部内での意識合わせはもちろん、すべての先生方に進路指導の意義や目的を理解していただくことを大切にしています」（菅野先生）

School Data：1895年設立／普通科／生徒数1080人（男子のみ）／進路状況（2025年3月卒業生）大学156人・その他196人

Q 志望校へのモチベーションを高める工夫は？

A 例えば、修学旅行後の2年次3学期、大学入試に対する意識の向上と、共通の目標をもつ仲間づくりを目的とし、「入

試問題研究会」を実施しています。同じ大学・学部を志望する生徒が4人程度のグループとなり、過去の入試問題をディ

スカッションしながら研究するというものです。全5回、同じメンバーで取り組むなかで、お互いの志望動機や目的意識に刺激を受ける生徒は多く、受験に向けたモチベーションが高まります。（塩原先生）

